

アメリカと日本の「宗教心」の意味 The Concept of Piety in Both Japan and America

エミリー・ポンド Emily Pond

82-372: Advanced Japanese II

1.初めに

「日本とアメリカにある宗教を比べると、どんな違いがあるか？」という質問を調べたいと思う。日本では、一番多くの人が信じている宗教は神道で、二番目に多くの人が信じている宗教は仏教だ。そして、アメリカでは、一大宗教はキリスト教だ。「宗教心」の意味は宗教によって違うから、アメリカと日本の「宗教心」の意味は違うと思う。だからアメリカと日本人にとって「宗教心」の意味を調べたいと思う。そのトピックを選んだ理由は、日本とアメリカの宗教に興味があるからだ。子供のころに、宗教がなくて、教会に行ったことがなかった。両親には宗教がなかったから宗教にあまり習わなかった。だから、少し興味があって、宗教のトピックを選んだ。今の段階の暫定的な結論は、日本には「宗教心」の意味は宗教を感じることで、アメリカには信じることだと思う。そして、アメリカと日本には、無神論者の珍しさの理由は違うと思う。

2.日本とアメリカにある宗教の比較

2.1.日本人によると、神様はどのように重要なのか？

日本では、神様は一つの存在者ではなくて、自然と先祖の中の色々な存在だ。一般的に、日本の宗教は多神教で、自然と先祖を崇拝することは重要だ。2008年の調査によると、日本人が「神様はどのくらい重要か」と聞かれると、「やや重要」は28.4%で、「あまり重要ではない」は14.6%で、「重要ではない」は20%の人が選んだ回答だった。

「非常に重要」と答えた率は5.4%だけで「重要」は11.8%だけだった。その調査によると、日本人は神様の存在をあまり気にしない。神様の面前は日本人にはやや重要かあ

まり重要で話さそうだ。反面、自然とかはもっと重要で、自然の神を崇拝することはもっと人気がある習慣だ。そして、先祖を崇拝することは重要そうだ。日本人には、祈ることと聖句を勉強することはあまり重要ではないけれど、初詣でとお参りすることは大事だ。その情報によると、日本人には「宗教心」の意味は祈ることと聖句を読むことではなくて、先祖を尊敬することと自然を崇拝することだ。

2.2. どうして日本には無神論者があまりいないのか？

日本人にとって、神様は非常に重要ではないけれど、2008年の調査によると、あの世を信じる若年層の割は22%で、奇跡を信じる割は38%だった。中年層には、あの世を信じる割は19%で、奇跡を信じる割は21%だった。そして、高年層には、あの世を信じる割は6%で、奇跡を信じる割は6%だった。日本の若年層には、霊性はもっと重要なので、あの世と奇跡に信じることは普通だ。そして、「あなたは無神論か？」と聞かれると、日本人はたいてい「いいえ」と答える。日本人にとって神様が重要ではないけれど、あの世と奇跡に信じるし、無神論者ではない。「神様がやや重要」と聞かれた割合が多いけれど、日本に無神論者があまりいないと言われた。それは、矛盾だと思う。理由は、日本には感じる宗教は信じる宗教より重要だ。自然と先祖を崇拝することは自分で出来ることだ。神様に信教は自分の感じることの方が大切ではなさそうだ。他の面白い点は、高年層には、あの世と奇跡はぜんぜん大切ではないことだ。日本には、今の世代はもっと精神的そうだ。今の世代は自分で宗教を感じる。アメリカには、全然違う。アメリカには、高年層の精神的は強くて、今の世代には神様の重要さが下がってきている。それは、他の日本とアメリカの一つ違う。

2.3. アメリカ人によると、神様はどのように重要なのか？

アメリカには、一番多くの人々が信じている宗教はキリスト教だ。キリスト教によると、神様は一つの存在で、神様に祈ることと聖句を読むことはとても重要な習慣だ。2008年の調査によると、アメリカ人が「神様はどのくらい重要か」と聞かれると、「非常に重要」と答えた割は54.8%だった。そして、「やや重要」は10.1%で、「あまり重要ではない」は7.0%で、「重要ではない」は3.0%の人が選んだ回答だった。それは、日本

と大違いだ。アメリカには、神様は大切に、信じない人の割合はとても小さいだ。アメリカに神様の重要性はキリスト教のルールの結果だと思う。キリスト教によると、神様に忠実が一番大事なことだ。キリスト教徒は毎日教会に行き、祈らなければならないで、キリストの歴史を勉強することも重要だ。キリスト教の厳しさは日本とアメリカの違いの理由だと思う。

2.4. どうしてアメリカには無神論者があまりいないのか？

アメリカには、無神論者の割合はとても低いで、宗教に信じる人の割合は高い。イギリス出身のキリスト教徒がアメリカを設立したからだ。アメリカでは、宗教はとても重要だから、無神論者があまりいない。その実、アメリカでは無神論者はたいてい変な感じで、悪いイメージがある。そのイメージはたぶんどんどん違っているそうけれど、今は無神論者のことはまだ珍しいだ。そして、キリスト教の聖句に対する思想信条は排斥される。例えば、アメリカには同性結婚はキリスト教に聖句に対するから、多くの州で違法だ。それも、どんどん違っているけれど、今は大きい問題だと思う。アメリカには狂信者が多いから、無神論者とか聖句に対することは珍しくなると思う。だから、アメリカと日本に無神論者があまりいない理由は違うと思う。

2.5. 信じる宗教と感じる宗教の違いは何か。

宗教を信じることは、歴史と聖書を勉強し、神に再々祈る。キリスト教徒は宗教を信じることの例だ。毎週の日曜日に教会に行き、説教師のお談義に聞いて、神様に祈ることだ。そして、宗教的な祝日を祝うことは大切だ。クリスマスとイースターはアメリカの一番重要な祝日だ。その祝日には、教会に行き、神様に祈ることは普通だ。それは、日本と全然違う。日本には、クリスマスとイースター商業休日だけだ。それは、信じる宗教と感じる宗教の違いの例だ。日本には、宗教の熱心はアメリカの方が強くなさそうだ。日本人には、毎日ではなくて、毎年年初詣でして、寺に訪問する。そして祈ることは毎日ではなくて、特別の時だけことだ。そのことは、宗教に感じることだ。日本人は、

自分で信念を持っているけれど、アメリカ人は外向きに信念を表す。それは、感じる宗教と信じる宗教の違いだと思う。

3.おわりに

この作文の結論は、日本とアメリカの宗教に関する態度は違う。もちろん神道と仏教はキリスト教に違うけれど、他の微妙な違いがあると思う。アメリカ人にとって、「宗教心」の意味は宗教を信じることで、毎週神様に祈ることと宗教の歴史を尊敬することだ。日本人には「宗教心」の意味は宗教を感じることで、自然と先祖を崇拝することだ。アメリカの宗教の熱心はもっと強そうだ。そのことは、アメリカと日本の宗教の大違いだと思う。

参考文献

Akagi, Hirofumi, Muneko Kusano, and Mariko Sakamoto. "生活習慣と宗教." *トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 上級用資料集*. By Kaoru Sasaki. Tokyo, Japan: 3A Corporation, 2011. 54-57. Print.

磯前, 順一. "Deconstructing "Japanese Religion": A Historical Survey." *Japanese Journal of Religious Studies* 32.2 (2005): 235-48. *JSTOR*. Nanzan University. Web. 16 Mar. 2015.

Kitasawa, Shinjiro. "Shintoism and the Japanese Nation." *The Sewanee Review* 23.4 (n.d.): 479-83. *JSTOR*. Web. 16 Mar. 2015.